

# 音楽を教える教師の仕事

北斗市立石別中学校教頭 小山内 仁

ズバリ、義務教育に音楽は必要なのか。

義務教育とは何か。それは、日常生活をしていく上で、必要最低限の知識と技能を身に付けること。「音楽」が出来なかったからと言って社会生活上不便を感じることはない。せいぜい「つきあいカラオケ」で、恥ずかしい思いをするだけである。

このように、音楽科不要論が根強い原因の一つに、音楽科が保証する学力が不鮮明であったことがあげられる。義務教育9年間における学習の結果、音楽を生活に活かすようになったのか、楽譜が読めるようになったのか、こうした問いに答えるべく、教育の成果を十分に説明なされなかったのである。

音楽科無用論まで含めた、ここ数年来のマスコミにおける音楽教育批判を背景として、今回の改訂を迎えた時、ここで問われるものは教育における音楽の果たす役割である。

## ◆音楽教育の現状を直視する

音楽教育は音楽美による情操の教育であり、このような情操が人間形成に欠くべからず一面を成すものであるとされている。

音楽科の指導における「何を」「どのように」という内容や方法論もさることながら、授業も含めて音楽科のいちばん基本的な問題は、内容や方法を「どんな考えで」するのか、扱うのかという理念的なものにあると言える。

例えば、学校の音楽教育は数年来厳しい批判にさらされている。興味のない授業や古くさい教材も、つきつめればその背後にある考え方・姿勢に問題があるといったことになる。

昭和22年以来、学習指導要領は何度も改訂されているが、多少の字句や表現こそ違え、この目的として書かれた内容の意味するところに大きな違いはない。高等学校においてもその理念的な趣旨は同じである。

我が国の音楽教育もすでに百年以上の歴史もっている。創設当時は「徳性の涵養に資する」をもって要旨とし、戦前までに至った。戦後は、一転して情操陶冶による人間形成という考え方になったのである。

音楽が人間の感情に関する芸術であって、音楽による、あるいは音楽を通しての教育が子どもの審美的情操の育成を意図する教科だということは多くの人々が納得するところであろう。

## ◆最近の研究会から

各地区で行われる音楽教育に関する研究会や音楽部会で助言を求められることが多くある。数多い現在の研究会に触れてみると、その果たしつつある役割は十分に評価するとして、そこにはいくつかの問題が及んでおり、破らねばならない壁が見えていると考える。

音楽教育を改善し、向上させる研究にはいくつかの段階と種類がある。教育目的観の確立、カリキュラムの改善、教材・教科書の研究と作成、楽器、施設の改良などである。

これらのうち、教師個人による研究として最も広く行われ、日常の音楽教育に密着し

て研究の実をあげているものは、いわゆる研究授業を中心とした研究会、研究発表会である。

多くの職業のうち、我々教師ほどこのような現職研修の機会の多いものはないのではあるまいか。

音楽教育にこのような研究が必要であると同様に、研究会そのもののあり方にも不断の改善がなければならない。それは研究会がややもすると形式化し、固定化し行事化しつつあることである。

本来の趣旨が忘れられて、一種の「研究会」の型だけが習慣的に踏襲されるようになると、そこにはもう研究的な気迫も失われ、単なる地区の季節的な教育行事、あるいはお祭りの行事となってしまう。

これからの音楽教育は、これまでのように優れた指導者の経験だけに頼るような時代の流れではない。現場における研究の最も重要な手段である研究会においても、我々音楽教育者が各々の経験の範囲内でだけ研究するのではなく、子どもの教育をめぐる広い立場から検討する心構えが必要なのではないか。

当たり前のことだが、音楽教育の研究会では、音楽的な観点からする検討が必ず加えられなければならないということである。子どもの音楽性が対象であるところの音楽教育の研究で、肝心の音楽性そのものが二次的になってしまったり、まして方法上の形ばかり残って音楽性が忘れ去られたりすることがあってはならないのである。

合奏指導の研究会で、その基本的なリズムの音楽的な検討が忘れられて、単なる楽器の形式的な組み合わせだけが討議されたり、創作指導の研究会で、子どもの創作した美しい旋律よりも、形式的な旋律作曲の作曲法だけが優先されて討論されたのでは本末転倒である。

技術的な面ばかりではなく、技術を土台にした音楽的な感動や創造的な面がこれまで以上に取り上げられてよいことである。

もちろん音楽学習において、読譜やリズムなどについての技術面の指導法は大切な内容に違いない。しかし、研究がこのような面だけに限定されたり片寄ったりすることは、音楽学習を単なる技術の学習に方向づける恐れがある。

音楽教育の進歩、改善は、もっと我々に身近な日常の授業、そして最も身近な研究の機会である、我々の研究授業や研究会の中から根をおろしてゆくものではないか。

#### ◆音楽科教育の直面する最大の問題点は何か

それは到達点を高めることもさることながら、むしろ出発点をいかに捉え、それを伸ばすかにあるといえる。

音楽教育とりわけ学校音楽についての多くの批判にもかかわらず、戦後の音楽教育のレベルは非常に上がっている。音楽的にも戦前では考えられなかったような程度の高さになった。ヨーロッパの有名な少年合唱団にもひけをとらないような合唱団が小学校にいくつもある。合唱や合奏のコンクールではこうした見事な成果がたびたび披露される。

しかしながら、現在の音楽教育は質の上から確かに素晴らしいものになった。今日、世界のどこに出してもひけをとらない素晴らしい子どもの合唱団、合奏団はいくつもある。そしてその多くはまぎれもなく現在の学校教育が基礎となり、学校の音楽教師が指導したものである。

立派な合唱や合奏が子どもたち自身に経験できることは、何とんでも音楽教育の目標に直接つながる学校教育の見事な成果だといってよい。にもかかわらず問題であることは、同時に音楽カリキュラムから疎外された子どもたちも少なからずいるということである。

伝統的に教育には祖先から積み重ねられてきた学問や文化を子孫に伝達し継承させる機能が課せられている。音楽教育で我が国や西洋の素晴らしい音楽文化を子どもたちに伝えることは重要な使命である。そして熱心で優秀な教師ほど、日頃から発声練習や読譜訓練を重ねて、少しでも高い音楽技能をもたせようとする努力こそが、すばらしい合唱や合奏をもたらすのであって、このような教師は大いに評価されてよい。

その陰に、ドレミも満足に歌えない子どもたちが置き去りにされてはいなか。リコーダーもろくに吹けないようなクラスがありはしないか。

もちろん、集団の中で能力の低い者があるのはやむを得ないが、問題はその割合である。学校でかかげる水準にまで達し得た子どもたちは立派に「音楽性を培われて」いるが、多くの達し得ない子どもたちは授業が難しい、わからない、だからそっぽを向く。

「音楽愛好の心情」が文字面だけのタテマエ化にならず、実際の授業実践の上に活かされるためには、各学校のカリキュラムを、教材を、指導法を、この方向で具体的に見直してみることが必要だろうし、それは今後の我々の課題とすべきである。

### ◆打開への道

子どもたちみんなの自然な音楽的表現をたくみに捉える授業

- 音楽に乗った授業。(歌は心である)
- 手のこんだ授業プランはいらない。

子どもが同感する素朴なリズムや旋律から出発し、しかもこれを伸ばす指導につなげる。

出発点を捉えることはやさしいことかもしれない。だが、これを到達点に向けて伸ばし、そして遂にはゴールに到達させることはたやすいことではないが、ここに音楽を教える教師の仕事があると考えたい。

the road less traveled...

ローマへの道  
Road to Rome Parade  
パレード  
夏物語

【パレードスタート】ローマ交差点 → 通称「ローマへの道」 →  
トラピスト大修道院前駐車場 → 石別中学校【ゴール】

2014.8.17 土曜日  
START 11:30  
雨天中止



- スペシャルゲストバンド
- 陸上自衛隊北部方面音楽隊
  - 函館大学付属有斗高等学校マーチングバンド
  - MAXIMUM Drum & Bugle Corps
  - 北海道教育大学函館校吹奏楽団
  - 函館市立亀田中学校吹奏楽部

- 北斗市内より
- ◆ 上磯小学校吹奏楽部 ◆ 久根別小学校吹奏楽部 ◆ 谷川小学校金管バンド
  - ◆ 浜分小学校金管バンド ◆ 上磯中学校吹奏楽部 ◆ 浜分中学校吹奏楽部



- 主催：「ローマへの道」実行委員会
- 協賛団体：日本マーチングバンド協会北海道支部、石別まちづくりプロジェクト委員会、石別町内会、石別ふれあう会、社会福祉法人情愛会、北斗市観光協会、北海道七飯養護学校おしま学園分校、北斗市立石別中学校、北斗市立石別小学校、社会福祉法人情愛会当別保育園、北斗市民生委員児童会委員3協議会、源島当別郵便局、茂辺地郵便局、谷好郵便局、(株)ヤマハミュージッククリエイト、有限会社ホンマ交通整備
- 後援：外務省  
北海道 北海道教育委員会、北斗市、北斗市教育委員会、北斗市北海道新幹線建設促進期成会、財団法人北海道国際交流センター、一般社団法人日本マーチングバンド協会、北海道マーチングバンド協会道南地区、源島音楽教育研究会、北海道吹奏楽連盟、函館地区吹奏楽連盟、北斗市かなで〜る協会、北斗市校長会、シーニックデナイト実行委員会、北斗市商工会、NPO法人スプリングボードユニティ21、NPOソーシャルエージェンシー協議会、新函館農業協同組合、プチキャリアーこぐま座、エコハ出版、株式会社島本印刷
- お問い合わせ：実行委員会事務局(石別中学校内) TEL.0138-75-3006

陸上自衛隊北部方面音楽隊  
特別演奏会のご案内

2014年8月17日(日) 開場/18:00 開演/18:30  
北斗市総合文化センター「かなで〜る」

入場無料(整理券が必要です)

問合せ先:北斗市かなで〜る協会 0138-74-2000



公益財団法人 太陽財団

公益財団法人太陽財団の平成26年度助成対象事業です。